

《単位互換提供科目詳細（シラバス）》

* 科目 No. 2904

科目概要記入欄

1. 開設大学名	島根県立大学		科目開講 キャンパス	浜田キャンパス		
2. 科目名	正式科目名	政策過程論			クラス名	
	副題				配当年次	3, 4
	旧科目名					
	学問分野	番号	22	名称	政治学	
	サテライトで開講される科目の科目群			A群	B群	
3. 担当教員名	島田 尚徳					
4. 単位数	2 単位		5. 開講学期	春（集中）		
6. 開講期間 曜日・時間	2020年9月15日（火）～2020年9月18日（金）集中講義 火～金曜日 9:00～18:00					
個別開講日	1回目 9/15	2回目 9/16	3回目 9/17	4回目 9/18	5回目 /	6回目 /
	7回目 /	8回目 /	9回目 /	10回目 /	11回目 /	12回目 /
	13回目 /	14回目 /	15回目 /	16回目 /	試験日	/
7. 基礎知識の有無	1. 「基礎知識を必要とする科目」 () ②. 「基礎知識を必要としない科目」					
8. 募集人数 (総授業定員)	5 人 (人)		9. 定員超過時の 選考方法	書類選考		

<p>10. 科目内容・授業計画</p>	<p>【科目内容】 本講義では、政治学・行政学的な視点から「政策過程」を解説します。「政策過程」は、一般的に、①問題の発見、課題の設定、②政策の立案、③政策の決定、④政策の実施、⑤政策評価という一連のプロセスのことを指します。このプロセスの基礎的な概念について学ぶとともに、それぞれのプロセスにおける参加者の行動、そして参加者の行動を左右させる制度やルールについて考察していきます。具体的な事例を交えながら進めていきます。課題設定や状況分析に関する能力の向上、さらには制度設計力の養成に寄与するような考え方についても講義します。それらの能力は公務員だけでなく、今後、社会人として生活を送る上でも大きな助けとなるはずです。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策過程論の基本概念について理解できるようになる。 ・現代社会における政策の役割が理解できるようになる。 ・政治や行政と市民の関係について、自分の意見をもち、今後の改善の方向性を検討できるようにになる。 <p>【授業計画】 以下の15回のテーマは、講義の進捗状況や理解状況に合わせて調整され変更されることあります。変更する際には、授業中に知らせます。</p> <p>第1回 インTRODクシヨン～政策過程論とは～ 第2回 政策過程の発展と変化① 戦後日本の政策過程の変遷 第3回 政策過程の発展と変化② 政策の担い手たち 第4回 政策過程の発展と変化③ 戦後日本の政官関係 第5回 政策過程の発展と変化④ 日本の行政組織制度 第6回 公共政策とは何か 第7回 政策の形成 第8回 予算のつくられ方 第9回 政策の執行と評価 第10回 政策過程における中央政府と地方政府の関係 第11回 政策過程における住民の参加 第12回 政策過程の具体的事例① ～沖縄振興計画を事例として～ 第13回 政策過程の具体的事例② ～沖縄振興計画を事例として～ 第14回 政策立案の手法 第15回 まとめ</p> <p>授業は講義形式で行います。上記のテーマごとの講義（70～80分）のあと、質疑応答（10～20分）の時間を設ける予定です。質疑応答を通して、受講生がテーマの講義内容を「腹落ち」できるようにしていきたいと考えています。同時に、コメントカードに理解したこと、自らの意見、質問等を書いて、考えを整理していく時間も設けたいと思います。具体的な政策過程のイメージを持ってもらうために随時、実際の政治や行政の現場などについても紹介します。</p> <p>【テキスト】 特に指定しません。 レジュメを配布し、それに沿って講義を行います。 興味のある学生は、以下の参考文献を読んでおいてください。政策過程を考える上での基礎的な視点が整理されています。</p> <p>【参考文献】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新藤宗幸『概説 日本の公共政策』東京大学出版会、2004年 ・大森彌『官のシステム』東京大学出版会、2006年 ・久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013年 ・秋吉貴雄『入門 公共政策学 - 社会問題を解決する「新しい知」』中公新書、2017年 ・高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年。 <p>そのほかの参考文献は講義のなかでそのつど紹介します。</p>		
<p>11. 試験・評価方法</p>	<p>毎回のコメントカードの内容 50%、講義終了後の試験 50%</p>		
<p>12. 別途負担費用</p>	<p></p>		
<p>13. その他特記事項</p>	<p>将来の職業選択として公務員を考えている学生や、公務員の世界に興味がある学生の受講も歓迎します。民間企業との比較も交えながら、仕事としての公務員の世界についても紹介し、学習できるようにします。</p>		
<p>14. サテライト科目の</p>	<p>科目等履修生（単位付与）として受け入れ</p>	<p>可</p>	<p>否</p>
<p>社会人受講について</p>	<p>聴講生（単位認定不要）として受け入れ</p>	<p>可</p>	<p>否</p>